

明日の家族を考える会 会 報



第4号

2009年9月

・発行 明日の家族を考える会・会長 羽賀絃一 ・事務局長 中村厚子
・発行責任者・編集人 羽賀絃一 ・毎月1回発行
・事務局 〒659-0091 芦屋市東山町10-2-701 中村方 TEL. 080-6165-7011
FAX. 0797-23-2488 URL <http://wnw-ashiya.com>

9月度幹事会

○日 時 2009. 9. 24 (木)
19:00~21:00
○場 所 中村邸

- 出席者確認 (敬称略) 河村、中村、羽賀、榎本、三木、宮本、以上6名
○配布資料 ①役割組織表、6事業企画運営推進者分担表 ②会報 (創刊号、第2号、第3号) ③第8回公開学習会「動く・こどもの館号がやってくる」の案内チラシ④兵庫県健康福祉局「子育て支援活動助成事業」募集&申請に関する書類一式

○報告事項

1. 事務局報告・中村事務局長

- 1) 男女共同参画団体協議会9月定例会の報告・・・羽賀会長
定例会は9月1日(火)に開催、内容は①参加27団体の活動報告、②2010年3月に開催予定の「ウィザスあしやフェスタ」について
15周年になるため1週間程度の期間で開催予定、記念講演会・各団体のワークショップ・パネル展示、バザーを行う。



左より河村さん、羽賀さん、中村さん、三木さん、宮本さん、榎本さん
中村邸にて

講師候補とテーマ、ワークショップ内容について各団体より提案することになった。詳細は後記の審議事項を参照。

- 2) 芦屋市男女共同参画センター協議会登録書受理。
- 3) 芦屋市社会教育団体登録書受理。
- 4) 賛助会員の件について
- 5) 「会報」創刊号、第2号、第3号を休会会員と賛助会員に送付済。
- 6) 11月10日開催「親子ファーストコンサート」に対して、SI六甲は後援、または協力団体になる。

2. 会計報告・河村会計担当

- 1) まちの寺子屋について県の助成金が入金となった。
- 2) 会費の納入状況の確認、来月後期分を徴収予定。

3. HP報告・大脇HP担当(本日欠席)

特になし

4. カルガモクラブ&バンビグループ報告・河村担当

- 1) 第8回公開学習会について詳細が決定。案内チラシ完成。詳細は後記の審議事項参照。
- 2) カルガモクラブ、バンビグループのシール完成。絵本などに貼り付けて活用する。
- 3) 県民交流広場事業「まちの寺子屋」を開設し、8月6日・20日に前田集会所で開催した。詳細は会報第3号を参照。
2010年1月から月1回(金曜日15:30~17:00)開催する予定。
- 4) バンビグループの参加者が多くなっているので何らかの制限を設ける必要がある。参加資格(カルガモクラブに参加した者)を明確にして制限する方法を検討する。
- 5) 本年度予算で絵本を購入する。

5. その他

講師派遣事業の1つとして、宮本会員が下記の日程で講演を行う。

- ・日時 10月27日(火) 10:00~
- ・会場 芦屋市男女共同参画センター ウィザス芦屋会議室E(ラモール芦屋2階)
- ・テーマ 女性のための健康講座「上手に自分自身の健康を守る
一子宮頸癌予防HPVワクチンについて」

○審議事項

1. 配付された役割組織表、6事業企画運営推進者分担表について審議し、了承された。
2. 第8回公開学習会について
案内チラシの配布は、カルガモクラブ&バンビグループの親子には手渡しし、これまでの公開学習会参加者に送付する。
10月1日発行の広報「あしや」に掲載された後、一般参加者からの申し込みが増える可能性がある。参加は事前申し込み制にしている。



- ・当日の役割分担(10月22日幹事会で再確認の予定)
 会員は、10:00集合、出演者のための駐車スペースの確保と確認、会場設営(椅子、机は使用しない。座れるスペース形式、ブルーシートを使用するかどうかとも要検討)の段取り、茶菓子の準備はしない。いつもと同じタレ幕を準備する。
 - ・インフルエンザ対策のために受付に消毒液を準備する。(宮本会員に依頼)
3. 親子ファーストコンサートについて
- ・実施要領の詳細が決定
 日時: 11月10日(火) 10:00~11:30
 会場: エルホーム芦屋地域交流スペース
 広報のためのチラシを作成する。11月の広報「あしや」に掲載を依頼する。
 - ・チャリティコンサート出演者に対する感謝の気持ちとして、交通費補助1人5000円×3人分、昼食費補助として1万円(3人分)を渡すことにする。
4. 男女共同参画団体協議会の2010年度「ウィザスあしやフェスタ」について
- ・実施要領 15周年記念企画として2010年3月1日に記念講演会を実施し、その後、1週間程度をフェスタ週間として各団体の行事内容案を9月15日までに提出する。
 - ・期間中、各団体の活動報告のパネル展示を実施する。

上記に対して、既に9月15日期限までに提出された下記の会長案を審議し、了承された。

①記念講演会講師・テーマ案

金谷千慧子(女性と仕事研究所代表理事)

テーマ: 女性のキャリア支援とコミュニティカレッジ

②フェスタ週間事業案

当会の第9回公開学習会を週間事業の企画として開催する。

テーマ: 中国少数民族の若者たち

=男女交際のきっかけから結婚に到るまで=

日本の若者たちとの共通点、相違点を検証し、男女が結ばれるまでの過程に学びます。

③各団体の活動内容のパネル展示に参加する。

5. 子育て支援に取り組む助成団体募集について

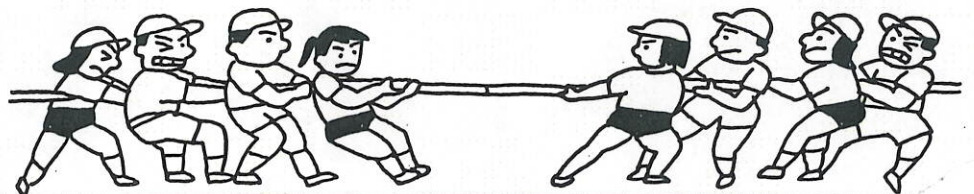
助成金申請について審議の結果、11月12日に開催する「親子ファーストコンサート」の企画を中心にして、当会の子育て支援活動を対象に申請書を提出する方向で進めることが了承された。担当: 河村、榎本

6. 今後のスケジュール

ボランティア感謝の集いと21年度第2回定例会の日程は、12月10日(木)

18:00開始とすることで調整することが了承された。

*次回幹事会 10月22日(木) 19:00~中村邸 卓話: 山本会員



○9月の子育て支援活動

*カルガモクラブ... 河村さん担当

第2・4木曜日10:00~11:30 西蔵集会所
0歳~よちよち歩きまでの親子が対象です。手遊びや先輩ママがサポートします。

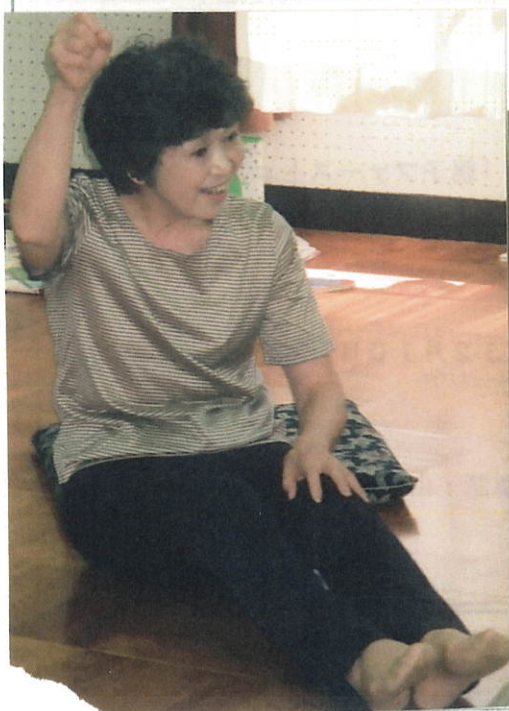
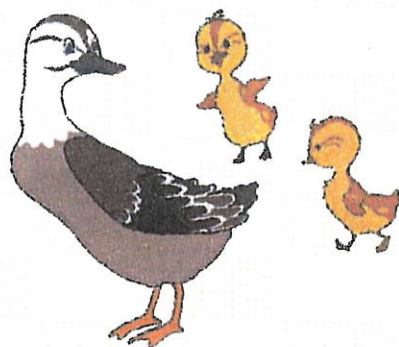
子育て仲間をつくって育児を楽しみます。

9月10日(木) 13組の親子

が参加されました。参加ボランティアは、田和さん、辻原さん、羽賀さん

24日(木) 16組の親子

が参加されました。参加ボランティアは、徳田さん



*金曜バンビ・・・河村さん担当

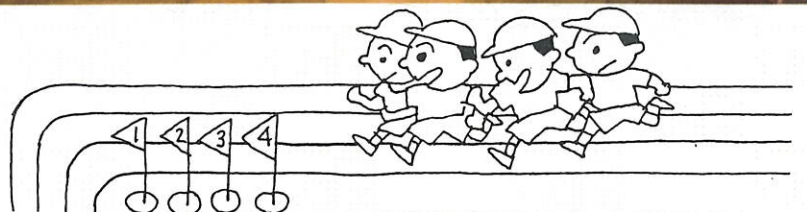
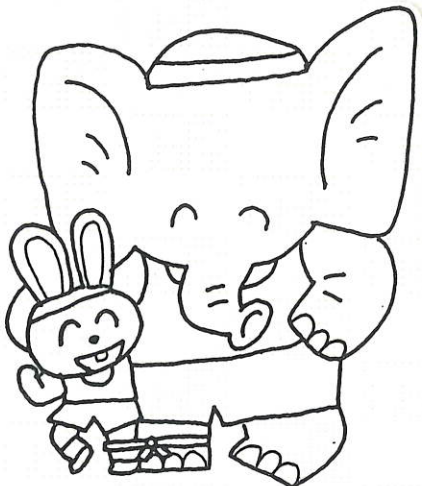
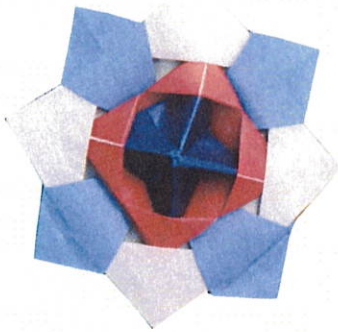
第1金曜日10:00~11:30 打出集会所

6ヶ月の継続カリキュラムで4月からはじめています。

9月4日(金)は **4組の親子**が参加されました。

折り紙で”こまづくり”に挑戦しました。出来上がった”こま”はどのこまも良くまわってきれいでした。

参加ボランティアは、曾我部さん、徳田さん、羽賀さん



*バンビグループ大盛況!! ...河村さん担当

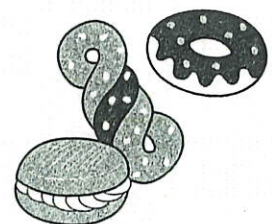
9月8日(火)は、28組の親子が参加

いつものように打出集会所で10:00~11:30に開かれたが、秋となって気候が良くなったことも影響してか、何と28組の親子が参加され、教室は満杯でした。新しく来られた方もおられてにぎやかなひとときを過ごしました。

今月は第4木曜日が祝日であるため開催は今回の1回だけとなりました。

バンビグループは、1歳~3歳の親子が対象で、自由遊びの中での友達づくりやリズム遊び、紙芝居、絵本の読み聞かせなどを行い、子育て仲間と一緒に楽しく遊ぶものです。

参加ボランティアは、曾我部さん、辻原さん、徳田さん、羽賀さん





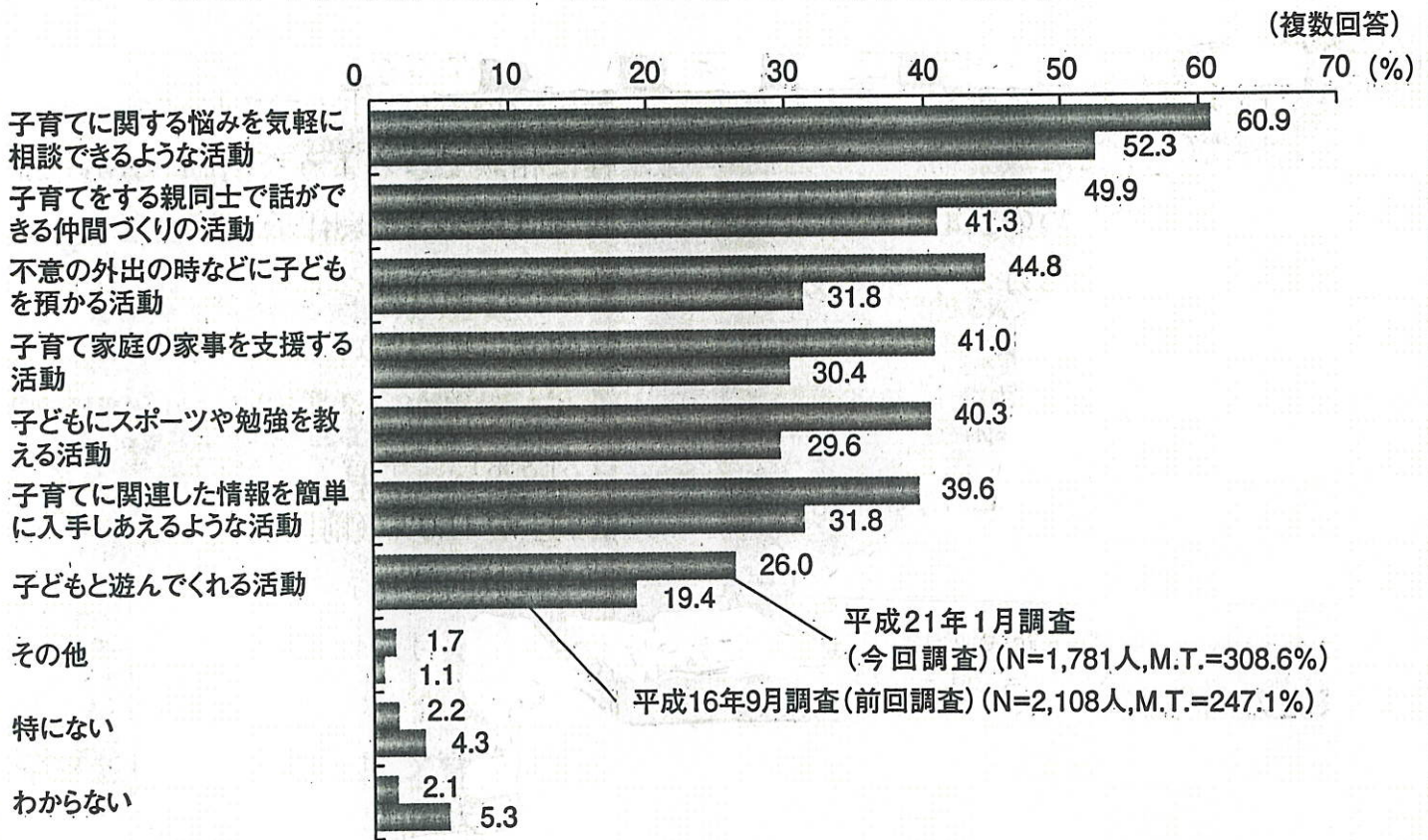

=知っておきたい知識=

子を持つ親があればいいと思う地域活動

2009年1月に内閣府が「少子化対策に関する特別世論調査」を実施したが、結果は、下記の通りです。

「子育てに関する悩みを気軽に相談出来るような活動」が60.9%、「子育てをする親同士で話ができる仲間づくりの活動」が49.9%、となった。

この調査結果を見ると、当会が現在運営している「カルガモクラブ」、「バンビグループ」の教室は、子育て支援の要望にマッチした事業の1つであると言えます。

編集後記

子どもたち(幼稚園・小学生)の自然体験について青少年教育活動研究会が行った実態調査を見ると、自然に触れる機会がどんどん減少していることがうかがえる。「海や川で貝を取ったり、魚を釣ったりしたことが1回もない」人は40%、「高さ1000m以上の山に歩いて登ったことが1回もない」人は68%、「日の出、日の入りを1回も見ることがない」人は43%、「木の実、野草、キノコなどを採って食べたことが1度もない」人は49%、10年前と比較すると1回もしたことがないという子どもの割合が大幅に増えている。最近では確かに安全面の問題もあって家の中でファミコンなどで遊んでおれば安心といった考えの人が多いと聞く。

ここは我々おじいちゃん、おばあちゃんの出番であろう、我々の子どもの頃を振り返るとみんな十分な自然体験をしており、その効用も良く知っている。お孫さんの面倒をみる機会のある人は、安全には気をつけなければならないが、ぜひ外に出て自然の中で自然の素晴らしさを十分に体験をさせてあげてほしいと思う。(羽賀)